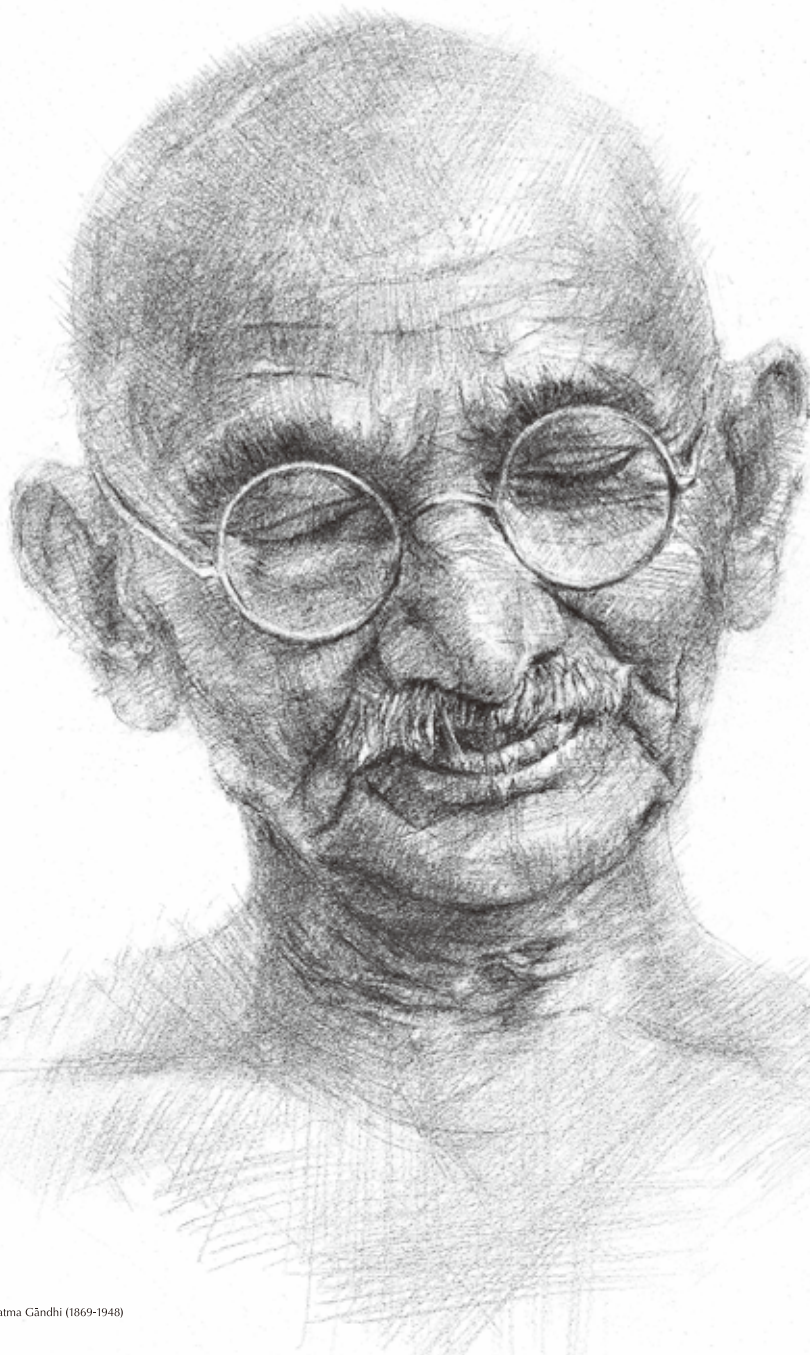


善きことは、 カタツムリの速度で動く。



マハトマ・ガンジー Mahatma Gandhi (1869-1948)

学校の成績は中位で、臆病な生徒。
しかし並みはずれた道徳心の持主。
18歳でイギリスへ。
弁護士資格を得、
友のために南アフリカへ渡る。
そこで直面したのは、
人間の人間に対する差別と侮辱。
その体験が人生の一大転機。
彼の地における21年間で芽生えたのは、
非暴力による不屈の精神。
獲得したのは、国際的な賞讃。
そしてこの信念と確信を胸中に
1914年、帰国する。
しかし、母なる祖国インドは
イギリスの植民地。
抵抗と闘争の中、
度重なる逮捕と投獄を甘受する。
断食もいとわず、
聖なるものの面前において
恥じることのない“真我”を追究。
宗教の融和に努め、
カースト制度の廃止にも心を砕く。
「私の全行動は、人類への
奪うことのできない愛から生じる」——
この信念ゆえに、非暴力を徹底。
そして、女性への限りない敬意、
青年への期待と熱意、
人々への絶対的信頼と賛意を表出した。
その人の名は、
マハトマ・ガンジー。
彼の運動を象徴したのは、“塩の行進”。
イギリス人に専売されていた塩を
自分たちで作らんと、
アーシュラムから海岸までの385キロを
24日間かけてゆくりと歩く。
「善きことは、カタツムリの速度で動く」
それは数百万人の
奇跡の大運動となった。
こうした闘いを重ねて1947年、
インドは200年にわたるくびきを断って、
悲願の独立を達成。
しかしその翌年、
一人の狂信者の凶弾によって、
ガンジーは78年の生涯に終わりを告げた。
最後の言葉は
「その青年を許せ」であったという。
.....
奈^ひ毘にふされたラージガートに、
ガンジーの碑文が刻まれている。
「七つの社会的罪」Seven Social Sins
1. 理念なき政治 Politics without Principles
2. 労働なき富 Wealth without Work
3. 良心なき快樂 Pleasure without Conscience
4. 人格なき学識 Knowledge without Character
5. 道徳なき商業 Commerce without Morality
6. 人間性なき科学 Science without Humanity
7. 献身なき信仰 Worship without Sacrifice
マハトマ・ガンジーのこの魂の箴言は、
人類への
普遍的な問いかけである。

「子どもたちの 子どもたちの 子どもたちのために」